

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 448 号	氏名	富永 綾
学 位 審 査 委 員	主 査	渡邊 郁哉	
	副 査	齋藤 俊行	
	副 査	村田 比呂司	
論文審査の結果の要旨			
1. 研究目的の評価			
近年、歯科治療においても EBM の重要性が高まっている。本研究はコンポジットレジン修復の口腔内生存時間に影響を及ぼす要因について検討を加えたものである。目的は十分に妥当である。			
2. 研究手法に対する評価			
後向き手法による長期臨床成績に関して、Kaplan-Meier 法による修復物の生存分析、Cox 比例ハザードモデルによる生存率に及ぼす因子の解析、ならびに多変量解析による変数分析と交絡因子の調整を行った。これらの方法は、本研究の目的に照らして妥当である。			
3. 解析・考察の評価			
本研究では、10 年後の生存率に術者間で有意差を認めた。接着システム間では有意差が見られなかった。これは、両システムとも十分な接着強さが得られているためである。リスクの定義から予測されるように、Cox 比例ハザードモデルでは再治療リスクが最大の影響を及ぼしていた。窩洞形態に関しては、I 級窩洞がほかの窩洞形態と比べて生存率が低い傾向にあった。これは、サンプル数の少なさのほか、咬合力の影響も因子と考えられる。歯種の影響は認められなかったため、これは接着システム、接着手技の重要性を裏付けるものである。			
以上のように、本論文は修復処置に関する EBM のデータのなかで重要な位置を占め、かつ今後の修復処置後の予後予測研究の進展に寄与するところが大である。審査員は全員一致で博士(歯学)の学位に値するものと判断した。			